

けた秋を紹介し合う発表会を行うことで、自分の気付きを友達に広げることができた。「おもせっこまつり」では、おもちゃごとに出店を出しお客さんに呼びかけたり、接客したり、お客さんになり楽しく遊んだりして楽しく祭を行うことができた。「おもせっこまつり」の後の作文では、祭の順序を思い出し、様子や気持ちを文章に表すことができた。

○2年生活科「どきどきわくわくおもせたんけん」 (10時間)

「もっとなかよし おもせたんけん」 (11時間)

「どきどきわくわくおもせたんけん」では、身近な地域に出かけ、地域の人々とかかわりを持ち、さまざまな場所やものを調べたり、利用したりして、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かったと共に、地域に親しみを持ち、人々と適切に接したり、安全に生活することができることをねらった。「もっとなかよしおもせたんけん」では、地域で生活したり、働いたりしている人々と、より親しく話したり、一緒に活動したりする活動を重視した。

第1回目の探検では、児童ばかりではなく保護者からも「しょうかいカード」を記入してもらい地図や写真を見せながらどこを探検したいのか一人一人の考えを膨らませていけるようにした。東西南北の4コースに分かれ、計画や準備を行い探検を実施した。その後探検を振り返り、グループごとに壁新聞にまとめた。

第2回目の探検では、1回目の探検で選んだコースとは、違ったコースを選び、より地域を知り、人々との触れ合いを図った。探検後に、探検した消防屯所の消防団の方を学校にお招きし、お話を伺った。また、牛を飼っているお宅をもう一度全児童で訪問し、牛に餌をやったり、インタビューをした。それらのことをグループごとに壁新聞や巻物、紙芝居などにまとめ、発表した。

○3学年総合的な学習の時間「おもせ生き物たんけんたい」 (50時間)

本活動のねらいは、「面瀬川に生息する生き物を調査や飼育、面瀬川の水質調査などの活動を通して、水辺環境と生き物のつながりを考え、生物多様性に気付かせる。また、身近な水辺環境と自分たちの生活とのつながりを見つめ直し、水辺環境を守るために、自分たちができることを考え実践しようとする態度を育む。」である。

1学期は、総合的な学習に初めて取り組むということで、導入の段階でまず総合的な学習の学習の進め方のオリエンテーションを行い、総合的な学習の意義や内容を確認させながら意欲付けを図って学習に取りかかった。水辺環境の学習としては、まず校地内の水辺である側溝の生き物調べを行った。そこで絶滅危惧種の子追い虫やオタマジャクシ、アメンボ、ヤゴ、カエルなどを見つけることができた。

次に校地外の身近な水辺である面瀬川に視点を向けて、実際に面瀬川に行つて

川の様子や生き物を観察してきた。そこで気づいたことや思ったことからさらに面瀬川について知りたいことを考えて「面瀬川を知ろう」というテーマから個々に課題を設定した。

2学期には、課題ごとに分かれたグループで面瀬川の観察、生き物採集などの体験活動を行った。その後、採集した生き物についてさらに詳しく観察したり調べたりした。まとめの段階では、「調べたことや気づいたこと、分かったことを2年生に伝えるために分かりやすくまとめよう」という課題を持ってグループごとに分かったことや気づいたこと、伝えたいことをまとめ、各グループで発表方法を工夫しながら発表会を行った。

○4学年総合的な学習の時間「川と共に」生活排水と海の環境（50時間）

本活動のねらいは、「地域の生活排水の調査や、面瀬川の水質調査などの活動を通して、生活排水の川に与える影響について考え、生活排水と川や海の環境とのつながりに気付かせるようにすること。また、きれいな川と自分たちの生活とのつながりを見つめ直し、川や海を守るために、自分たちができることを考え実践しようとする態度を育むこと。」である。

一般的に生活様式の変化（肉類や乳製品、油脂などの摂取量の増加、清潔・快適を求める生活など）により、1人1日あたり発生する汚濁物質の量が増加していることに加えて、下水道などが普及していない地域では、多くの家庭からの排水が、処理されないまま河川などに放流されていることから、近年の水質汚濁の主な原因は、生活排水と見られている。

そこで、学区の中心を流れる面瀬川の水辺環境が、生活排水によって水質が汚染されていたり、水生生物が住みにくい環境に変化していないかという視点から単元を構成した。

1学期の課題を設定する前には、実際に面瀬川を散策しながら、下水がどのように流れ込んでいるかを観察させた。児童は、予想していた以上に下水が流れ込んでいたことに驚いていた。そこで、水生生物による水質調査を行い川の実態をつかませた。児童は下水の流れ込む面瀬川は少し汚れていると予想をしていたが、実際には多くの水生生物が存在し、その結果は意外にも「おおむねきれいな川」であった。

これらの体験を通し、面瀬川の様子や生活排水について、思ったことをや考えたことをカードに書き出し、みんなで考えていきたいことや確かめたいこと、やってみいたいことなどを話し合わせ、課題作りをさせた。さらに、課題ごとにグループを編成し、家庭の生活排水や川や海の今と昔の様子の変化やについて家族を中心に探究活動を行わせ、情報の収集を行わせた。そこで児童は、祖父母の時代に比べて、魚の量が少なくなっていることや工事などで川の様子が大きく変化していることを知ることもできた。

夏休みには、各家庭の生活排水の様子を調査することを課題にし、総合ノートにまとめるようにさせた。

2学期は、夏休みの調査結果から分かったことを伝え合い整理させた。すると、多くの家庭では浄化槽を使用しており、浄化槽を通した生活排水が川に流れていることが分かった。児童は浄化槽を通してきれいな水を川に流していると考えていたが、インターネット等で情報を収集すると、そうではないことに気付いた。さらに、数年後には三陸自動車道が面瀬川の上を通ることや、震災後の復興により面瀬川河口付近から堤防が建設されることを含め、未来の面瀬川がどのような環境であればよいかを新たな課題として設定した。

小グループを編成し、面瀬川を守るために生活排水を改善する方法を考え、グループの計画にしたがって体験活動をさせた。台所、風呂、洗面所等の水回りから出る生活排水を今までよりきれいにして流す大変さを感じていたが、一人一人の小さな積み重ねが、自分たちの大切な面瀬川を守ることができ、さらにはもっと大きな規模で環境を守ることができることを感じることもできた。

そこで、これまでの活動から、地域や家庭に知らせていきたいことを新聞にまとめることを行った。今までの体験活動から分かったこと、考えたこと、感じたことを中心に原稿を作り、個人で新聞にまとめた。

最後にこれまでの学習のまとめとして、「未来の面瀬川を考えようフォーラム」を開催し、保護者や地域の方々を招き、個人新聞の発表会を行った。

○5 学年総合的な学習の時間

- ①「夢・未来・私たちの面瀬」～私たちの壁画を作ろう～（20時間）
- ②「豊かなる気仙沼の海」
～森・川・海の世界と人々とのつながりを追って～（50時間）

本活動のねらいは、「面瀬川を中心とした面瀬の自然のすばらしさを認識すること、東日本大震災後の面瀬について考えることを通して、自分たちのすむ面瀬の未来について思いをもたせ、壁画に表現させる。さらに、面瀬の豊かな自然環境を守り、安心・安全な町づくりをするためにはどうしたらいいのか、自分たちが何をすべきかについて考え、実践できるようにする。」

「海・川・山のつながり」について調査したり、水産業に従事する方々の話を聞いたりして、海洋における生き物の多様性とつながり（食物連鎖）をとらえ、それらと人間の生活との結びつきについて認識させる。さらに、海・川・海とのつながりを認識し、豊かな自然環境を維持するために、自分達が何をすべきか考え、身近なことから実践できるようにする。」である。

1学期には、ワールド・ビジョン・ジャパンの支援を受け、防災倉庫への壁画作成「夢・未来・私たちの面瀬」で被災したふるさとへの思いをもって活動した。リアスアーク美術館の学芸員、山内先生の指導により、自分達の考えた「未来の面瀬の姿」を壁画で表現した。これまで学習した「川のめぐみ」の活動を中心に、大切にしたい人々の生活や、守りたい貴重な生物、震災から復興

させたい海岸についての絵を思い思いに表現し、一人一人のメッセージを付け加えた。児童は、防災倉庫に自分達の思いを表現することで、より安全な生活と未来の自分達をイメージすることができ、自分の考えをもって行動したり、みんなに伝えようとしたりする態度を培うことができた。

2学期は、「いちのせき健康の森」での宿泊学習を体験し、「森林のめぐみ」について学習した。森のはたらきが「海のめぐみ」と関係あることを探求する活動をとおして、森の生き物の多様性や生き物同士のつながりと、森の働きが海に及ぼす影響を考えた。また、「森は海の恋人運動」を知ることで、人々の生活と自然環境とのつながりなどについて学んだ。ここで児童は、より豊かな自然環境を維持していくために、自分たちに何ができるのかを主体的に考えようとしていた。グループ課題を決める段階では、自分たちの考えを話して話し合うことで、より良い考えを出し合うことができた。

3学期には、これまで学んだ事をリーフレットにまとめ、友達や家族、地域の方々に発信していく活動を行った。また、リーフレットに活動したことを表現し、写真や絵を使って分かりやすくプレゼンテーションをする事ができた。

これらの活動は、震災に関係する支援の機会を生かし、現在の児童の状態を考えながら行ったものである。ワールド・ビジョン・ジャパンの支援では、支援をしてくれた外国の方々を招いて感謝の気持ちを伝え、活動の様子を知らせることで、学習の成果を感じる事ができた。また、講師を招いて「地球上の環境問題」について知り、自分達が直面する困難な問題にも主体的にかかわっていかうという態度を育むことができた。

現在は、震災のために海岸付近での活動はできないが、今まで蓄積された面瀬小学校の活動の記録を見て考えたり、「バードコール」や「海藻押し葉」など、活動に関連した創作活動を行った。このことで「森・川・海」のつながりと、海と共に生きる人々との生活を見つめさせ、「豊かなる気仙沼の海」について考えることができた。

○6 学年総合的な学習の時間「取り組もう！節電」（50時間）

本活動のねらいは、「エネルギー問題と節電について学習することを通して、自分たちの生活を見つめ、自然環境と人間、社会とのかかわりについて考えを深めるようにする。また、人と自然が共生できる豊かな環境を守るために、日常生活の中で自分たちにできることやすべきことを考え、進んで実践できるようにする。」である。

1学期の課題設定の段階では、環境教育リーダーの菊地先生と連携して「環境教育講座」を2回開き、身近な生活場面からエネルギーとのかかわりに気付かせる機会を設定した。同様の関心をもったメンバーで15班にグルーピングし、ワークショップを行いながらそれぞれに課題を設定した。また、計画の段階では、河北新報社と連携して「新聞づくり講座」を開き、「編集会議の持ち方」や「新聞の作り方」を学習させた上で、グループ毎の活動内容と方法を十分

に考えさせた。

夏休みには、各グループの活動計画に基づいて情報収集に取り組んだ。「省エネ調理の実践」「節電の実践」「発電の実験」「節電に関するアンケート調査」「地球温暖化に関する資料調査」等、それぞれ自主的な活動が進められた。

2学期には、元ワールド・ビジョン・ジャパンの北林先生と連携して「環境教育講座」を開き、『省エネ・節電で地球温暖化をストップできるのか』ということ再度考えさせ、今後の取り組みに向けての意欲付けを図った。

さらに、自分たちの取り組みを地域に発信するために新聞にまとめる活動を行った。節電につながるさまざまな実践を通して学んだことや、地域の方々を対象に行ったアンケート調査の結果から分かったことなどを整理・分析し、各グループ毎に『面瀬小学校「取り組もう！節電」新聞』を作った。参観日においては『環境フェスタ』を開催し、ポスターセッションを行って保護者に活動のまとめを発表した。また、作成した新聞は地域に配布した。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

- 紙媒体の参考資料（新聞、出版物など） □ CD-ROM □ 写真
□ その他（ ）